



やわらぎの鐘

青梅市立第一中学校
学校だより 第31号
(アンケート特集号)
令和5年9月 6日

生徒対象のアンケート調査（7月実施）の結果を御紹介します

校長 川窪 公夫

※ 数字は「%」を示します。G組については、学年別集計には含まず、全体集計に含んでいます。

※ 全て、4段階での回答となっています。内容は、次の1～4の数字で表記します。

①=当てはまる ②=やや当てはまる ③=やや当てはまらない ④=当てはまらない

※ 数字の合計が100%前後にならないのは、「分からない」と回答した人数を含んで反映していないことによります。今回の集計数は、231名分です。



(1) 全ての学習の基盤となる資質・能力の育成 〈言語能力の育成〉

本校では、「言語能力の育成」に向け、例えば言語能力の基盤を築く「朝読書の活動」や自分の思いや考えを自分の言葉で伝える「ノー原稿発表」などに取り組んでいます。

◆ 「朝読書の時間は、進んで読書に取り組んでいる。」

学年	①	②	③	④
1年	69	27	2	2
2年	53	21	12	13
3年	73	20	4	2
全体	63	25	6	6

全体として、約9割の生徒が肯定的な回答でした。また、「①」の回答は、昨年度よりも14ポイント上がりました。朝読書がますます定着している様子が分かります。今後は、「①」と回答できる生徒を70%まで高められるよう努めていきます。

◆ 「総合的な学習の時間等の発表では、原稿に頼らずに話すよう心掛けている。」

学年	①	②	③	④
1年	12	46	30	12
2年	22	39	28	11
3年	36	40	17	7
全体	23	39	26	12

本校では、集団の前で発表する際に単に原稿を読むのではなく、聞いている人達の顔を見て、伝えられるようノー原稿の指導をしています。特に3年生は、生徒会活動などにそのような機会が多くあります。今後も学年が上がるごとに定着度を高めていきます。

(2) 主体的・対話的で深い学びの追究 〈年3回の公開授業の充実〉

全教員が学期に1回の授業研究を行い、「主体的に学習に取り組む」「対話から自らの考えを広げる」「考えを再構築して学びを深める」に向けた工夫を念頭に授業力の向上に努めています。また、今年度から「家庭学習ノート」を廃止しましたので、現在、別の形で学習習慣の定着を図る方法を検討しています。

◆ 「授業で、自分の考えを深めたり、広げたりしている。」

学年	①	②	③	④
1年	28	50	12	10
2年	30	43	22	5
3年	40	39	17	5
全体	31	42	20	7

昨年度と比較して、「①」の割合が7ポイント高くなりました。全体としては7割以上の生徒が肯定的な回答でした。多くの生徒が真面目な態度で授業に臨み、対話的な学びにおいても他者の意見に耳を傾け、自らの考えを深めようと努めています。今後も「①」の割合を伸ばせるよう授業改善を図っていきます。

◆ 「家庭学習に意欲的に取り組んでいる。」

学年	①	②	③	④
1年	19	31	35	15
2年	12	36	30	22
3年	19	35	29	16
全体	15	33	32	20

昨年度より、肯定的な回答が20ポイントも減少しています。今年度より、「家庭学習ノート」を廃止したことも要因と考えられます。「意欲的に家庭学習に取り組む生徒の育成」は、今年度の校内研修会のテーマの一つでもあります。数値を高める手立てを確立します。

(3) いじめ問題への対応(学校集団として)〈未然防止に向けた取組〉

いじめが発生する要因は多岐にわたりますが、本校では「いじめが起こらない環境」づくりに重点を置いて取り組んでいます。

◆ 「学校へ行くのが楽しい。」

学年	①	②	③	④
1年	51	39	8	2
2年	34	45	10	11
3年	54	30	11	5
全体	44	38	9	8

8割を超える生徒が肯定的な回答をしています。また、「①」の回答は昨年度より、8ポイント増えました。反面、5人に1人の生徒が否定的な回答となっています。今後も、否定的な回答の減少を目指し、生徒が通いたいと思う学校づくりに取り組んでいきます。

◆ 「自分のクラスは安心できるクラスだと思う。」

学年	①	②	③	④
1年	60	34	2	4
2年	23	35	30	12
3年	63	32	2	2
全体	50	33	11	6

8割を超える生徒が肯定的な回答をしていますが、2年生の約4割が否定的な回答をしていることが分かります。この結果を真摯に受け止め、周りに配慮した行動ができるよう継続的に指導し、クラス内の人間関係が良好になるよう尽力していきます。

◆ 「悩み事や困り事を相談できる先生はいますか？」

学年	3人以上	2人	1人	全くいない
1年	31	27	24	18
2年	39	14	12	34
3年	44	27	15	14
全体	39	23	16	22



昨年までの質問は、「親しく話せる先生がいる」でしたが、「親しく」＝「悩みを相談できる」とも限らないので、質問内容を見直しました。長期休業中前のSOSの出し方教育の際に生徒が見たDVDでは、「悩んでいるときは、できるだけ3人以上の大人に相談をしましょう。」となっていたので、回答は3人から0人までの範囲にしました。この結果の捉え方は様々ですが、約50名の生徒が教員には相談できないと回答している事実を真摯に受け止めたいと思います。教員に相談できない約50名の生徒が保護者など別の大人に相談できると良いのですが、アンケートからは、推し量ることができません。今後も日常的な言葉かけや「いつでも誰にでも相談週間」の取組などを通して、生徒が教員に相談しやすい雰囲気づくりを心がけていきます。また、専門家から相談を受ける際の手法を学ぶなどスキルアップを図るとともに、人間的な魅力を高めていきます。悩み事や困り事があったときに「あの先生に話してみようかな。」と思いついてもらえるように生徒との信頼関係を築いていきます。

(4) 自己肯定感(自分を大切に思う心)・自己有用感(自分が役に立っていると思う心)を高める取組

本校では、生徒を認め、ほめることによって、個々の生徒の自信を高め、内面の成長を促すことに重点を置いています。

◆ 「自分のことを大切な存在だと感じている。」

学年	①	②	③	④
1年	20	52	18	9
2年	29	38	21	12
3年	43	33	13	11
全体	32	39	17	11

昨年度に比べ、「①」の回答が8ポイント増えました。また、肯定的な回答が7割を超える一方で、昨年度同様、約3割の生徒が否定的な回答でした。自己肯定感の醸成は最重要課題です。今後も無限の可能性のあることを信じられる声かけや機会を大切にします。

◆ 「自分は学校の中で、認められたり、ほめられたりしている。」

学年	①	②	③	④
1年	29	54	10	7
2年	30	43	16	10
3年	39	42	14	4
全体	33	46	14	7

約8割の生徒が肯定的な回答をし、「①」の回答が、昨年度より6ポイント高くなりました。一方で2割を超える生徒が否定的な回答となってしまいました。今後も「①」の回答が増えるよう感謝の言葉を大切にされた学校運営を行っていきます。

(5) 社会において自律的に生きる力の育成

今年度より、スローガン「振る舞い 輝く！—中生 ～3ない運動×SDGs(青梅一中ver.)」＝「3ない運動 =もったいない・みっともない・申し訳ない」の推進を学校運営の中心に据えた教育活動を展開しています。特に、その推進の原動力になっているのが生徒会活動です。生徒会本部を軸に各専門委員会が素晴らしい活動を展開しています。

◆ 「普段から『3ない運動』など『振る舞い』が輝くことを意識した生活を心がけている。」

学年	①	②	③	④
1年	22	57	9	4
2年	16	44	20	8
3年	34	49	11	0
全体	26	52	18	5

昨年度に比べ、「①」が6ポイント増え、「③④」が8ポイント減るという嬉しい数値となりました。全体として約8割の生徒が「3ない運動」を心がけた学校生活を送っており、定着が進んでいることが分かります。歴代の生徒会が力を入れて来た「3ない運動」が今後も継承されていくことを願っています。

◆ 「SDGs(青梅一中ver.)を意識した学校生活を心がけている。」

学年	①	②	③	④
1年	27	50	17	4
2年	14	50	24	9
3年	70	25	5	0
全体	40	39	17	4

約8割の生徒がSDGsを心がけながら、学校生活を過ごしていることに喜びを感じます。この数値の高さは、SDGsの取組を積極的に推進している生徒会本部及び各専門委員会の活動が充実している証拠でもありと考えます。後期から2年生が中心となる生徒会にも大いに期待しています。

◆ 「清掃や給食当番などの係活動に積極的に取り組んでいる。」

学年	①	②	③	④
1年	58	38	4	0
2年	47	38	11	4
3年	76	17	5	1
全体	58	31	9	2

昨年度同様、約9割の生徒が肯定的な回答をしています。清掃や給食当番など日頃から責任をもって臨んでいる姿を多く目にしています。これは、素晴らしい本校の伝統でもあります。この良さは、ボランティア活動とともに、自己有用感の高揚につながっています。

◆ 「学校行事に積極的に取り組んでいる。」

学年	①	②	③	④
1年	60	31	10	0
2年	61	29	7	3
3年	24	31	24	19
全体	43	31	17	10

全体として約4分の3の生徒が肯定的な回答でした。3年生は体育大会をリーダーとして成功させ、修学旅行でも大きな成果を發揮しました。しかし、「①」の数値が低く出ているのは、自己評価の厳しさによるところと考えられます。最後となる合唱祭も期待できます。

◆ 「ボランティア活動に積極的に取り組んでいる。」

学年	①	②	③	④
1年	15	25	25	35
2年	15	25	28	31
3年	24	31	24	19
全体	18	26	25	30

今年度から軌道に乗り始めているボランティア活動です。積極的に取り組んでいる生徒は、毎回のように参加してくれています。反面、まだまだ、半数以上の生徒に浸透していません。自己有用感の高まるボランティア活動の機会を増やせるよう工夫をしていきます。

◆ 「自ら進んで挨拶をしている。」

学年	①	②	③	④
1年	64	23	9	4
2年	63	30	4	3
3年	56	32	10	1
全体	57	29	9	5

全体として9割近くの生徒が肯定的な回答で、昨年度同様の傾向ですが、ブれる可能性の低い「①」を回答した生徒は嬉しいことに11ポイント増加しました。これからも保護者の皆様の御協力のもと、「①」の数値が70ポイントを超えるような学校を目指していきます。

◆ 「身だしなみや、不要物を持ってこないなど学校のきまりを守ろうとしている。」

学年	①	②	③	④
1年	69	25	6	0
2年	71	24	5	0
3年	68	28	2	0
全体	67	28	5	0

昨年度と同様の数値で、全体として9割を超える生徒が肯定的な回答でした。その中でもブれる可能性の低い「①」を回答した生徒が67ポイントでした。社会性の育成のためにも「①」の数値が80ポイントを超えるような取組みをしていきます。

◆ 「宿題や提出物は期限までに提出するように心がけている。」

学年	①	②	③	④
1年	62	29	8	2
2年	65	27	8	0
3年	66	23	6	4
全体	61	27	9	3

昨年度同様、全体として9割近い生徒が肯定的な回答でした。また、「①」の割合は、昨年度より6ポイント増えました。家庭学習の定着に向け、宿題のあり方は重要なので、「①」の割合を8割以上に高めるためにも宿題や提出物への取組みに工夫をしていきます。

(6) その他、アンケート結果から

【家に帰ってから、平均(月～金)1日当たりどのくらいの時間、勉強していますか】残念なことに「ほとんどしない」が36ポイントで一番多い数値でした。次に多いのは、「30分程度」で33ポイントです。家庭学習の習慣化を図ることが急務だと改めて実感できる数値となってしまいました。

- ◎ 約9割の生徒が自分専用のスマートフォンを持っており、その内の約8割の生徒が一日2時間からそれ以上の時間をSNSやメール、オンラインゲームに費やしています。SNS青梅一中ルールなどもありますが、今後も保護者の皆様の御意見を伺い御協力をいただきながら、前述の時間が減り、家庭学習の時間が増えるよう努めていきます。